

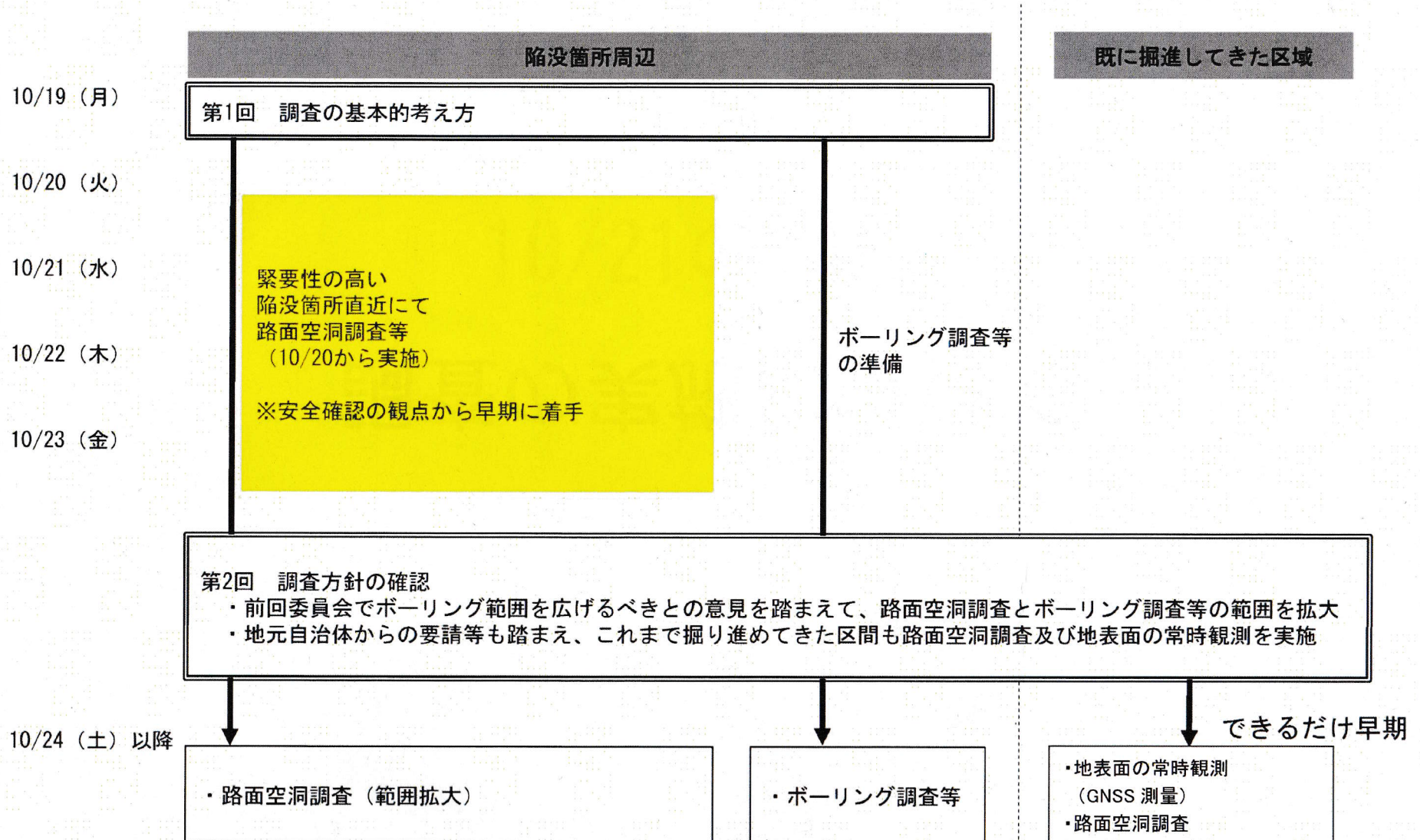
10/21の対応

The background features a large, light blue watermark of the Tokyo Ring logo. The logo consists of a stylized circular ring with two leaf-like shapes extending from the left and right sides. The words "TOKYO RING" are printed in a light blue, sans-serif font across the center of the ring.

調査の実施について

地表面陥没に関する調査の状況

調布市地表面陥没に関する調査の状況



地表面陥没に関する調査の状況

① 原因究明のための調査について

10/18に発生した地表面陥没の原因究明のため、当該陥没箇所及びその周辺道路において地盤状況の確認を行うため、以下の調査を行う。

① 路面空洞調査

- ・「高解像度地中レーダーシステム」を用いて地表面付近の空洞の有無を調査する。

② 地盤状況の調査

- ・コアボーリング調査を行い、地質状況を確認する。
- ・音響トモグラフィ調査を実施し、深度方向及び断面方向の地盤状況を確認する。

③ 地下水状況の調査

- ・ボーリング調査箇所及び既設の調査孔を用いて、周辺の地下水の状況(水位、流向、流速)を確認する。また陥没箇所から採取した地下水について成分分析を行う。

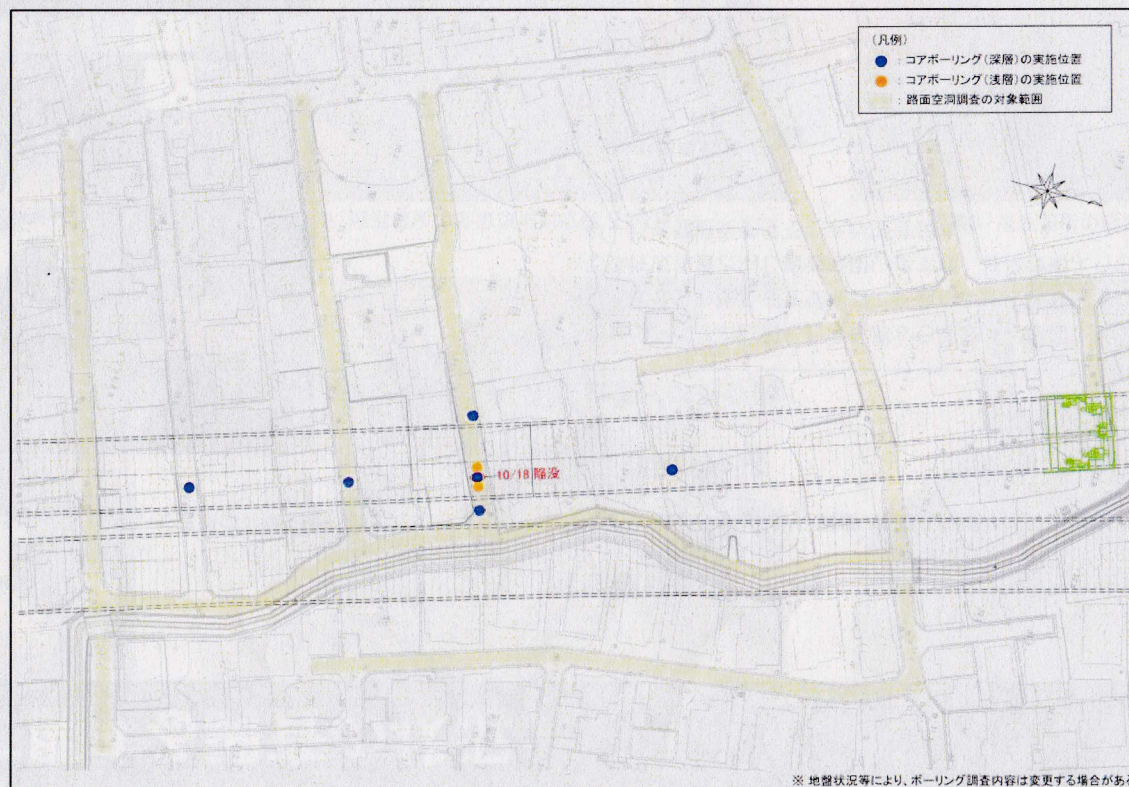
④ 埋設物の状況確認

- ・陥没箇所周辺の埋設物の状況を企業者とともに確認する。

⑤ 地歴、文献、施工データの再確認

- ・陥没箇所周辺の地歴、文献、施工データを再度確認する。

調査位置については、下図の位置を基本にし、関係者の了承を得た上で実施する。



地表面陥没に関する調査の状況

【路面空洞調査】

陥没箇所及び周辺道路を「高解像度地中レーダーシステム」を用いて空洞の有無を調査する。



※道路狭隘部は、ハンディ型の地中レーダーにて計測を実施

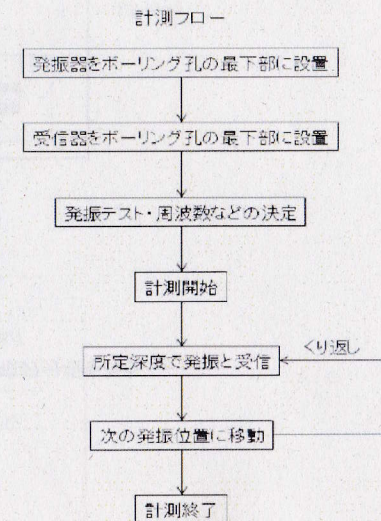
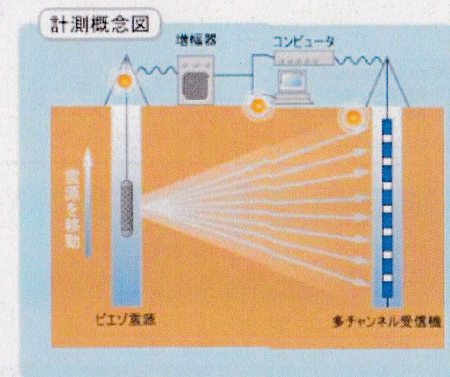
【音響トモグラフィ】

音響トモグラフィにより、深度方向及び断面方向の地盤状況を確認する。

計測方法

計測イメージ図

ボーリング孔に設置した発振器から周波数と振幅を制御した縦波（P波）を発振し、地中を伝播してきた波を受信器で受信します。音響トモグラフィ地盤探査は従来技術である弾性波探査と同じ縦波を用いますが、従来技術よりも周波数が高い波（kHzオーダー）を発振受信することができます。

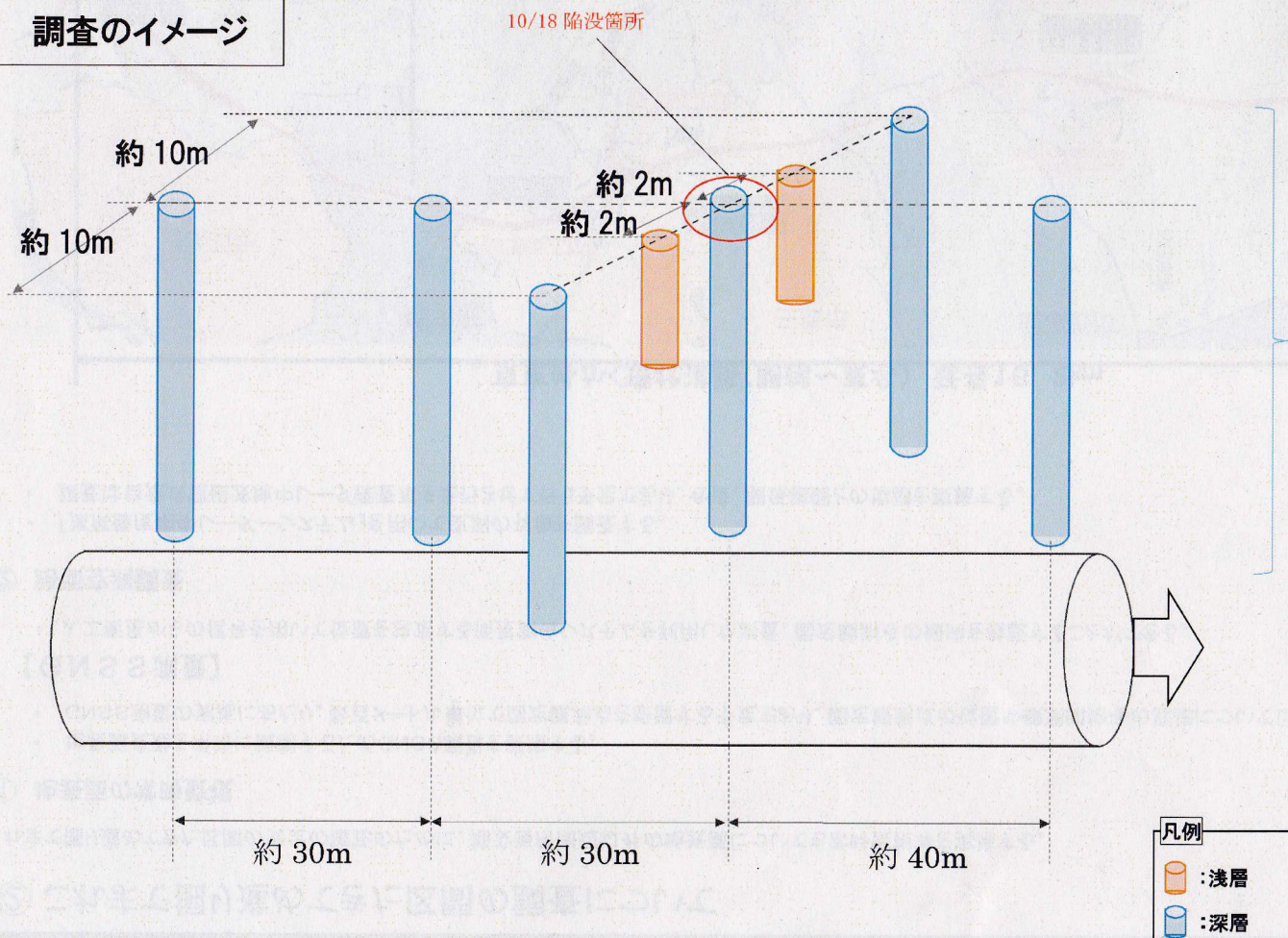


地表面陥没に関する調査の状況

【ボーリング調査について】

- ・陥没箇所における鉛直方向の確認 ⇒ コアボーリングによるサンプリング
- ・陥没箇所周辺における水平方向の確認 ⇒ コアボーリング孔の間の地盤状況を音響トモグラフィにより確認

調査のイメージ



ボーリング調査イメージ

※地盤状況等により、ボーリング調査内容は変更する場合があります。

地表面陥没に関する調査の状況

② これまで掘り進めてきた区間の調査について

これまで掘り進めてきた区間の安全の確認のために、陥没箇所周辺以外の地表面についても常時監視等を実施する。

① 地表面の常時監視

- ・ 地表面変動を常時に観測するためGNSS測量を実施する。
- ・ GNSS測量の実施にあたり、数百メートル単位で固定観測点を設置する予定であり、固定観測点の位置や観測開始等の詳細については、今後、関係機関との協議を実施する。

【GNSS測量】

- ・ 人工衛星からの信号を用いて位置を決定する衛星測位システムを利用した測量。固定観測点の傾向を確認することができる。

② 路面空洞調査

- ・ 「高解像度地中レーダーシステム」を用いて空洞の有無を調査する。
- ・ 調査は自走式電磁波地中レーダ探査車を走行させて行う予定であり、今後、関係機関との協議を実施する。



地表面陥没に関する調査の状況

③ 調査に伴う通行止めの状況について



地表面陥没に関する調査の状況

④ 現状の計測、監視の状況について

- ・陥没箇所付近に迂回誘導員を配置し、空洞調査完了までの間、一般車両および関係者以外の通行を規制する。
- ・24時間の巡回監視や日々の地表面計測を継続するとともに陥没箇所の監視を重点的に行う。

